

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/8/13 ～2021/9/14 )

### 1. 勉学の状況

8月23日から Fall Semester がはじまり、現在は授業開始から4週目になります。今学期ではESLの授業とCommunication Measureの授業を4つ、合計15単位分履修しており、うち1つがオンライン開講の非同期型で開催されていますが、それを除く4つは対面での講義を受講しています。授業内容に関しては、聞き取れない部分も未だ多々あり、また聞き取れてもネイティブ特有の言葉の使い方や、特に専門科目の講義では単語の意味を理解できない場合もあり、それらの理由から理解に苦しむこともあります。リスニングに関しては次第に慣れてきたようにも感じますが、後者に関しては今後も悩まされることが多いのではないかと思います。しかし千葉大学で言うところのMoodleのようなシステムがあり、そこから教材の閲覧をしたり、授業によっては講義動画を掲載していることもあるため、それを見直したりすることによって理解に繋げることはできています。

### 2. 生活の状況

当初の予定とは異なる住居に引っ越しましたが、そちらでは差し当たって問題なく生活することができています。一人暮らしは千葉大学に入学した時からしていたためあまり心配はしていませんでしたが、文化というか、生活様式が思った以上に日本のそれと異なっていたため、順応するには難儀するのではないかと感じています。交友関係については現地に暮らす日本人や一部のルームメイトに懇意にさせていただいており、休日に連れ立って外出したり、食事に行ったりというふうに過ごしています。体調等も良好なので維持していこうと思っています。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/09/15 ～2021/12/15 )

### 1. 勉学の状況

前回報告した、渡航後 1 ヶ月時点での報告書を記入してから秋学期の終わりまでの状況について記していきます。勉学においては Communication Measure の授業を 3 つと ESL の授業を 2 つ、計 15 単位分の履修を終えました。Semester の開始時点から削除・追加した授業はなく、予定通り受講が完了した形になります。Communication Measure の授業については千葉大学で専門に学んでいた訳ではなかったため、予備知識がほぼゼロの状態でのスタートになりましたが、学ぶ内容が自分にとってはほとんどが目新しい内容で興味深いと感じました。グループワークのある授業もあり、意思疎通において不安もありましたが、不明な点などについてはグループのメンバーにテキスト等で質問をすることで、なるべく解消するよう努めました。他に、ESL の授業として英作文の授業とプレゼンの授業を受講していましたが、その二つに関してはそれほど収穫が無かったように感じています。特に前者に関しては、千葉大学で履修していた内容の反復になるような部分が多く、後者に関してはその授業の課題よりも他の授業、オンラインで授業していた千葉大学の授業の課題を優先させていた節があったので、正直なところ受講しなければ良かったとも思っています。しかし、受講していた 15 単位の授業の忙しさを大体把握することはできたので、次の Semester の履修登録をする際の参考にはできると感じました。成績については、先述した英作文の授業以外はひとまず満足のいくものでした。

### 2. 生活の状況

アメリカでの生活によりやく慣れてきた頃だと感じています。新型コロナウイルスの新たな変異株が出てきたところではありますが、これまでは体調の変化なく過ごすことができました。食生活等についても偏りのないように留意しているため、極端に体重が増加したり減少したりしたということはありません。体調面に関しては今後も維持したいと考えています。

交友関係等についても大きな問題なく過ごせていると感じています。あまり多くはありませんが現地で友人も数人いて、休日は時々その人たちと出かけたり食事に行ったりして特に退屈することはなく過ごしています。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/01/10 ～2022/05/05 )

### 1. 勉学の状況

現在の報告期間は Spring Semester で、この期間に私は専攻のコミュニケーションメジャーの授業を4つ、計12単位分受講しました。前回の Fall Semester では15単位分、5科目を受講しましたが、そのうち2科目の英語科目にあまり成果が感じられなかったことと、15単位分の授業に加えて千葉大学の授業をいくつかオンラインで受講していたため、負担が大きいと判断して Spring Semester では専門科目の授業のみを4科目分受講した形になります。

私が Spring Semester で受講した授業は3つが対面形式で1つがオンライン形式の授業です。私が取っていた対面授業は月水金の週に3回行われる授業（1時間弱）と、火木の週に2回行われる授業（1時間半弱）の2種類のみでしたが、他の学生の話聞く限り、理系のプロジェクト系では週に1回3時間程度の授業や、音楽系の授業では夜遅い時間帯に行われる授業もあるようでした。履修を決める時にこれらの情報は確認することができますが、履修したい授業の時間帯が被っていて取捨選択を迫られる場面もあったため、千葉大学で履修を組むよりも複雑で時間がかかるというのが個人的な感想です。下の写真が実際の時間割です。

	UC Fall Semester	Mo We Fr	Room		Tu Th	Classroom		UC Spring Semester	Mo We Fr	Room		Tu Th	Classroom
37													
38				9:30-10:50	Introduction to Communication Theory	MCMICKEN 53					9:30-10:50	Introduction to Interpersonal Communication	REC CENTER 3210
39	11:15-12:10	Foundation of Academic Oral Communication	60WCHARL 215	11:00-12:20	Introduction to English Composition	60WCHARL 115	12:20-1:15	Introduction to Public Speech	MCMICKEN 27				
40				14:00-15:20	Introduction to Organizational Communication	MCMICKEN 205					3:30-4:50	Communication and Popular Culture	MCMICKEN 256
41	Asynchronous	Introduction to Public Relations	N/A					Asynchronous	Communication in Problem Solving	N/A			
42													

実際の授業についてですが、主に講義形式の授業、頻りにディスカッションの機会がある授業、頻りにクラスでプレゼンを行う授業がありました。コミュニケーション専攻という性質上、他のメジャーよりも話す機会が多かったのではないかと思います。特に後者2つの授業に関しては現地の学生と同様に自分の考えを述べたり、他の学生の意見を聞いてレスポンスをしたりすることが求められていました。語学力の観点から私にとってこれらの活動は決して楽なものではありませんでしたが、授業前にテキストの対象箇所を読んでおいたり、プレゼンに関しては詳細な台本を作成して練習をしたりして、事前の準備を入念にすることでなんとか対処しました。ど

うしても聞き逃してしまった部分などに関しては、授業後に教授や周りの学生に確認するなどして、分からないまま放っておかないようにしていました。

授業外の学習に関しては、前述したテキストを読んだりプレゼン資料を作成したりすることの他に、オンラインで頻繁に受験する小テストや中間・期末試験がありました。これらに関してはオンライン上で自分の点数やクラスの平均点を確認できますが、大概是平均点より少し上だったので問題はなかったと感じています。授業を普通に受けてテキストを読めばなんとかなる程度の難易度だったと思います。

授業外の課題等については主に学内の図書館で行っていました。場所を選べば基本的に静かで、電源や通信環境も整っている上に金曜と土曜以外は午前0時まで開館しているので、自宅であまり学習をしたくない私にとっては快適な場所でした。グループで話しながら作業することができる部屋もありますが、グループでプロジェクトを行うとき以外は一人で勉強することが多かったです。基本的に平日は授業が終わった後は図書館に行って課題をする、というのが放課後の流れでした。課題の量は多く、言語が英語であることを考慮しなかったとしても、千葉大学で履修していた頃よりも多くの時間を課題に費やしていたのではないかと思います。休憩ももちろん取りながら勉強していましたが、帰宅するのは大体午後8時から9時くらいといったところでした。正直忙しく大変でしたが、周りの学生に遅れをとりたくないという思いが勝っていたためそれほど苦ではありませんでした。

## 2. 生活の状況

Spring Semester 期間では留学生活も半ばを過ぎていたということもあり、前半と比べて慣れた生活を送ることができたと感じています。食生活に関してはあまり変わりありませんでしたが、友人と食事に行ったり、自分で試したことのないお店に挑戦したりと外食の機会が増えたと思います。日頃から食事は欠かさないようにしたりジムで運動をするように心がけたりしているため、体重の著しい増減は無かったと思います。体調等についても私は特段異常なく過ごすことができていましたが、友人の中には新型コロナウイルス感染症に罹ってしまった人も何人かいるようでした。大学内では屋内でのマスク着用が義務付けられていましたが、2022年の2月くらいにはその規制も撤廃され、教室やジム、図書館など学内の全ての施設においてマスクを着用する義務が撤廃されました。街中やスーパーマーケット、レストラン等でもマスクをつけている人はほとんどいなかったため、自分自身での予防措置や体調管理等が重要になってくると思います。自己責任となる反面、マスク無しでの生活はとても快適であったためこの緩い規制には賛成でした。

交友関係については、Fall Semester と比べてパーティー等のイベントに行く回数が減ったため、それほど新たな関係が広がった印象はありませんでした。それよりも、同じ人と遊びに行くことが増えたため関係が深まったという感じでした。どこかに出かけた時の例としては、主に休日にスキーやアイススケート、クライミング、アミューズメントパークのような場所などがあったと思います。シンシナティでは公共交通機関がそれほど盛んではないため、多くの人が車を持

っています。私のような交換留学生が自分の車を手にして運転することは現実的ではないですが、車を持っている友人ができればほとんどの人が快く運転してくれると思います。

治安上の観点では、シンシナティは安全な場所であるとは言えません。これは現地の学生や住民も言っていたことなのでほぼ間違いのないと思います。キャンパス内、周辺は比較的安全だとされています(と言ってもキャンパス内で暴行事件が発生したという事例も何件かありました)、キャンパスから離れるにつれて治安は悪くなっていく感じがします。幸運にも私は直接的な被害を被ったことはありませんでしたが、夜に暗くなってからや、早朝に一人で出歩くのは控えた方がいいと思います。というより周りにも止められます。前述した通り車が使えないため、それほど離れていない友人等の家に行った帰りは歩いて帰ることが多くなるかもしれませんが、そうした際には十分に注意をしなければならないと思います。これに関しては私の意見ですが、住居についても、キャンパスから徒歩 20 分程度以上離れた場所は治安があまり良くない通りに面していることもあるため、これを読んで参考にされる方がいらっしゃる場合はよく検討した方がいいと思います。

とは言っても体調と治安の点での問題が特に無かったため、生活全般に関しては満足のいく、退屈のないものだったと思います。日本にいては経験できないようなことに積極的に挑戦したり、様々な文化やバックグラウンドを持つ人たちと関ったりすることはとても楽しいものでした。帰国間際に関しては授業も終わっていたこともあり、友人に会う回数も増えて別れるのがとても名残惜しく感じていました。Farewell Party のようなものを開いてくれたり、プレゼントをくれたりする人もいました。中には日本に来てくれると約束してくれた人も数人いましたが、そのような縁を築くことができたのはとても有益だったと感じています。総じて、満足のいく、貴重な体験をたくさんすることができた留学生活を送ることができたと思います。この派遣留学に関わってくださったすべての方、またアメリカ合衆国内で仲良くしてくれた友人たちには大変感謝しています。